

子どもたちの未来を生きる力を育む

～「新しい学習指導要領」がスタートします～



そもそも
「学習指導要領」
ってなんですか？



全国どの地域においても、一定水準の教育を受けられるように、教科などの目標や大まかな内容を国が定めたものを「学習指導要領」といい、約10年に1度見直されています。

新しい学習指導要領は、「新しい時代を生きる子どもたちにこんな力を付けて欲しい」という思いが詰まったものです。

新しい時代を生きる子どもたちに必要な3つの資質・能力

情報化やグローバル化の進展、人工知能の飛躍的な進化など、変化の激しい予測困難な時代を子どもたちは生きていくこととなります。このような時代には、さまざまな価値観や言語、文化を背景とする人たちと相互に尊重し合いながら生きていくことが今まで以上に大切です。

学校教育の中でも、社会経済状況の変化を踏まえて、子どもたち一人一人が主体的に未来を切り拓いていく資質・能力を育んでいく必要があります。

これらの実現には、次の3つが欠かせません。

- ① 知識・技能の習得
- ② 知識を使える力（思考力・判断力・表現力など）
- ③ 自ら学ぶ姿勢

日頃から学校の授業などを通して、物事を捉える視点や考え方を鍛え、子どもたち一人一人に、未来の創り手となるために必要な生きる力を育んでいきます。

大人になる頃はどんな未来だろう...？



情報化



グローバル化



人工知能の進化



今の学びが
未来へつながる

積極的に英語でコミュニケーションしている様子
(沼田市立沼田東小学校)

ポイント①

学校と社会（家庭や地域）で子どもを育てる

新しい学習指導要領では、これまで以上に学校と社会が連携・協働し、子どもたちを育てることが求められています。学校や社会が「よりよい教育を通じて子どもを育てていく」という目標を共有して、これまでの取り組みを一層充実させ、両者が力を合わせ

て、子どもたちに必要な資質・能力を育てることが大切です。

それぞれの学校では、目標の実現を目指し、授業や学校行事の中で、地域の方の力を借りるなどの取り組みを進めていきます。



ポイント②

3つの学びを意識して授業を工夫する

子どもたちに必要な資質・能力を育むには、子どもたちが「どのように学ぶか」が大切です。

学校の先生たちには、右の3つの学びを意識した授業づくりの工夫が求められます。

子どもたちの学ぶ意欲が自然と湧き、意見を交わしながら自分の考えを深めていく授業の実現を目指します。

主体的な学び

学びに興味関心を持って向かい、次の学びにつなげる

対話的な学び

さまざまな考えに触れることで自らの考えを広げる

深い学び

身に付いている知識をつないで、理解を深めたり、情報を取捨選択して新たな考えを持ったりする